「こ

今、最も訴えたいこと

物資調達手段の想定を 「仮設」の2年短い 気弱になっている人支えて 短時間の

岩手県
雪乃さん
したが、
わなかっ
に物資が
を想定し

岩手県
木貞子(
けが大変
変だし、
いるから
して甘え
ければ。

岩手県
グ業、石
住宅に住
その先の
い。長期
無利息で
が行ってほしい。

岩手県
昇さん(5
て何を励
周りから
たのだか
どうすれ

岩手県
業員、葉
人は粘り
なら、この
必ずこの
になって
てくれる方は、そんな人を

宮城県
さん(25)
も多くの
ることを
地だから
とを願い
被災地全体が復興してほ

宮城県
生恵美子
の方々は
経営して
らめた。
暮らして

福島県
男さん(4
2時間で
要なもの
てきたい
はルール
原発について、収束までの
を示してほしい。

福島県
さん(41)
子供が転
受けない
に対する
くの人が

被災した谷純子さん（54）に声をかけながらマッサージをする石山さん（右）＝岩手県大船渡市の避難所で13日、兵藤公治撮影

93年津波で奥尻の両親死亡

函館の看護師 大船渡で心身ケア

「悲しみ吐き出し前へ」

93年の北海道南西沖地震による津波で奥尻島に住む両親を失った北海道函館市の看護師、石山正子さん(55)が、岩手県大船渡市で東日本大震災の被災者の医療ボランティアに取り組んでいる。避難所や被災者宅を巡回し「大変だったね、つらかったね」と語り掛けながら、被災者の心と体のケアに当たっている。

石山さんは同島出身。函館市内の病院に勤めていた93年、津波が故郷を襲った。父柾二さん(当時64歳)と母トミさん(同61歳)、そして実家を一気に失った。

現実を受け止められないまま、両親の火葬を迎えた。被災地入りしていた看護師が「つらかったね」と抱きしめてくれた。涙があふれ、心が少し軽くなった。それでも阪神大震災(95年)の時は心の整理がつかず、ボランティアに加われなかった。

東日本大震災で、津波に町がのみ込まれる様子をテレビで見た。両親の顔が浮かび、心が痛んだが、参加を決めた。「津波で親を失った私だからこそ、悲しみを分かち合うことができるのでは」

現在は大船渡市赤崎町を中心に避難所や被災者宅を巡回。健康相談に応じている。大切にしているのは、スキンシップ。長期の避難所生活で疲れがたまった被災者の肩や足をもみほぐしながら「津波ひどかったね、悲しかったね」「負けないでね」と語りかける。マッサージを受けた三浦タキ子さん(76)は「最高だよ。体が軽くなったよ。看護師さんも大変だったんだね。私も頑張るよ」と笑顔を見せた。

石山さんは16日まで大船渡に滞在予定だ。

「大切な人、場所を失った事実は消えない。だけど、悲しみを吐き出すことで人は前に進むエネルギーをつかめる。私もそうだったから」【蒔田備憲】

死者	行方不明	避難者
1万3392人	1万5133人	13万9895人

	死者	行方不明	避難者
北海道	1	0	734
青森県	3	1	887
岩手県	3867	4101	4万4821
宮城県	8190	8025	4万8289
秋田県	0	0	539
山形県	2	0	1777
福島県	1272	3003	2万4809
茨城県	23	1	774
栃木県	4	0	1040
群馬県	1	0	2797
埼玉県	0	0	3458
千葉県	18	2	1117
東京都	7	0	919
神奈川県	4	0	534
新潟県	0	0	4919
山梨県	0	0	821
長野県	0	0	900
静岡県	0	0	760

※13日午後7時、警察庁まとめ。数字は人

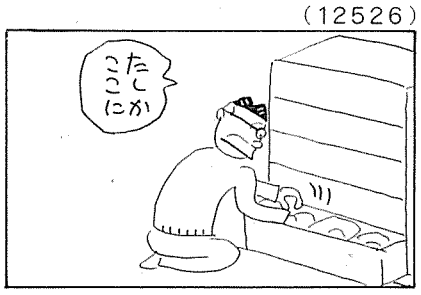
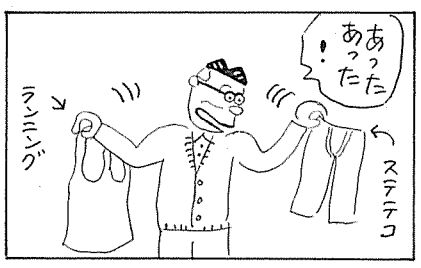
岸田衿子さん死去

童話作家・詩人

絵本「かばくん」などを残した童話作家で詩人の岸田衿子（きしだ・えりこ）さんが7日午前、髄膜腫のため神奈川県小田原市内の病院で死去した。82歳。葬儀は近親者で済ませた。お別れの会を後日開く。喪主は長男未知（みち）さん。

東京出身。劇作家の岸田国士（くにお）の長

アサッテ君

東海林さだお

（12526）